

# 彩の国資源循環工場からの 有害化学物質による環境汚染について

池田こみち(環境総合研究所 顧問)

廃棄物処理施設が集中する彩の国資源循環工場敷地内及びその周辺地域では、本格稼働前(2004年度)から市民による環境監視活動が行われてきた。2012年度の調査では、焼却処理を伴う3つの処理工場の廃棄物受入量が稼働後右肩上がりに増加していることも背景に、ダイオキシン類(PCDD及びPCDF)の濃度がこれまでになく高くなり、松葉中のダイオキシン濃度を大気中濃度に換算した場合、環境基準の2倍に迫る濃度となっていることがわかった。また工場周辺の寄居町・小川町にもその影響が及んでいるのか、周辺地域でも濃度の上昇が見られた。

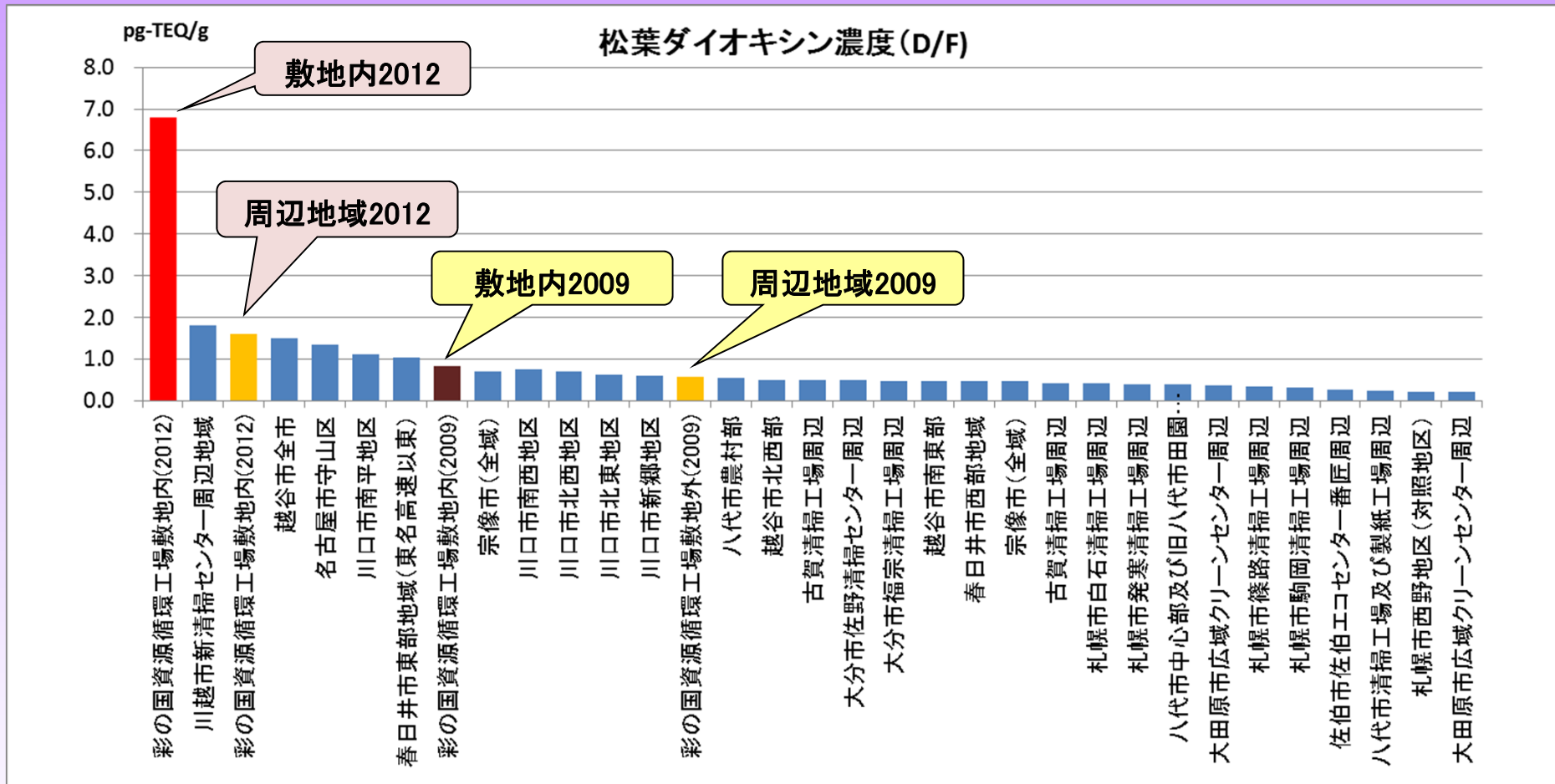
また、日本では、廃棄物焼却施設の排ガス中の重金属類は規制されていないが、EUにおいて規制されている12項目の金属類を測定した結果、敷地内や周辺地域のアカマツの針葉が吸収し蓄積している水銀濃度は極めて高く、大気中にガス化したり、微粒子状の水銀が排出されていることが危惧される。

個々の処理施設については、法律に従った監視規制が行われているが、松葉による調査から、彩の国資源循環工場敷地内、周辺地域においては、複数の工場からの累積的・複合的影響を受けている可能性が示唆される結果となった。

各工場に対して、より厳しい施設等の維持管理、運転管理を求め、監視を強化し、有害物質の排出実態を明らかにすると共に、環境改善に向けた有効な対策を講じていくことが必要である。蛍光灯リサイクル工場については、回収した水銀量とその処理処分方法について、情報の公開を求める必要がある。

2013.04.15

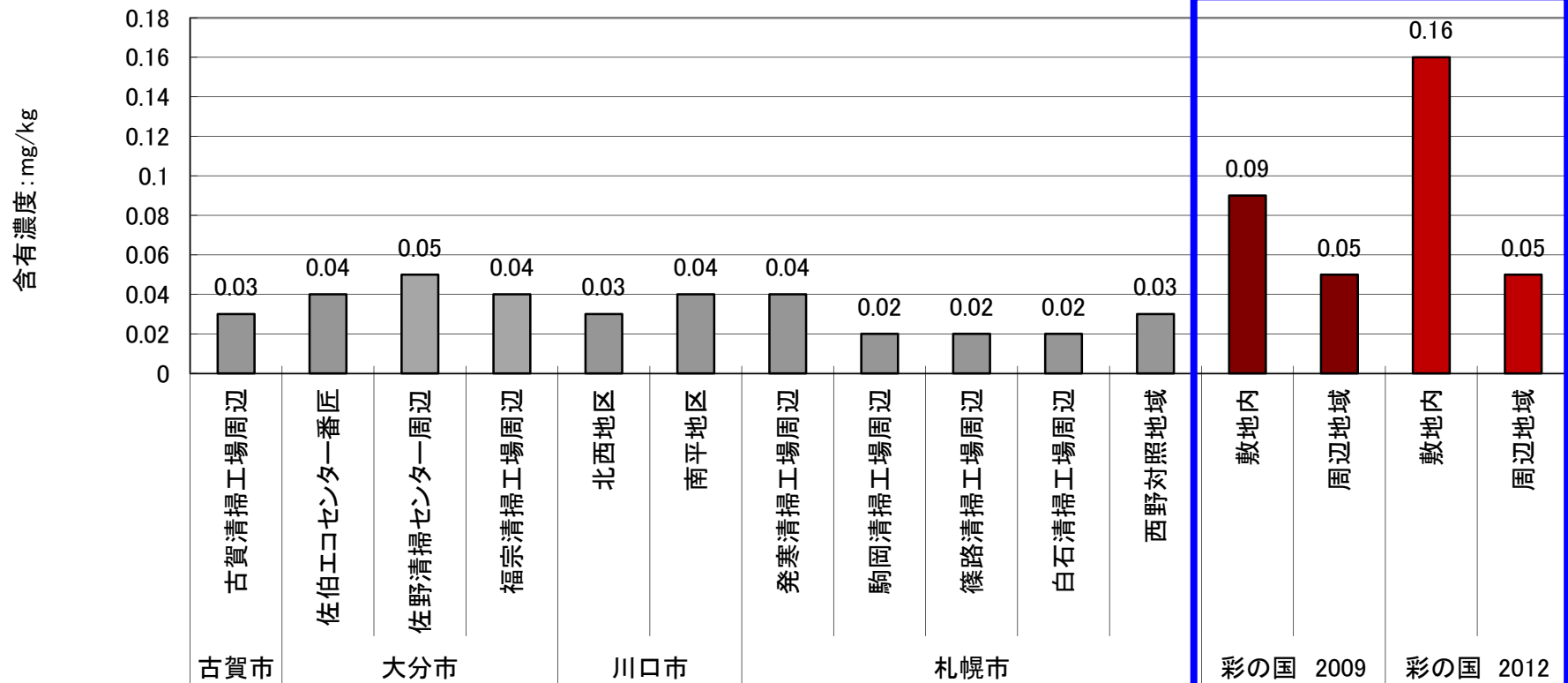
# 松葉中ダイオキシン類の毒性等量濃度を 他地域（2008・2009年度）の結果と比較すると



2008年度、2009年度に松葉調査を行った地域の結果と比較すると、今回の彩の国資源循環工場敷地内の濃度6.8pg-TEQ/gは極めて高く、10年前の産廃焼却炉周辺と同等のレベルとなっている。

出典：環境総合研究所(東京都品川区)

# 松葉に含まれる水銀濃度を 他地域の結果と比較すると



出典: 環境総合研究所(東京都品川区)

- 敷地内・周辺地域とも、他地域の焼却炉周辺と比べて高い濃度が検出されている。他地域の3倍もの高濃度。ダイオキシンの場合には、アカマツはクロマツの1/2の濃度となることが分かっている。マツの針葉の単位面積当たりの呼吸量を考えると、水銀の場合もクロマツに換算した場合、さらに高くなる可能性も考えられる。